

朝 日 遺 跡

はじめに

本年度、朝日遺跡調査区はA～G区の7区である。A区は、国道22号線の西、検見塚の西北に、B～G区は、A区の西約150mのインターチェンジ導入部分に位置する。B～G区は、その一部はすでに県教育委員会によって調査されているが、激しい湧水のために、調査が断念されていた地区である。しかし新たな湧水対策機器（ウェルポイント）の導入により、以下に述べる様に、大きな成果を得るに至った。調査面積は9,511㎡。

今回の調査によって検出された遺構・遺物は、弥生時代・中世の2時期にわたる。以下にその概要を述べるが、弥生時代については次の様に分期する。Ⅰ期—前期、Ⅱ期—中期前葉（朝日式）、Ⅲ期—中期中葉（貝田町式）、Ⅳ期—中期末（高蔵式）、Ⅴ期—後期前半（山中期）、Ⅵ期—後期後半（欠山式）。

A区

本調査区は、北半が弥生時代の谷地形に当り、この斜面に中期のハマグリ・カキを主体とする貝層の堆積が見られた。この谷地形に沿う形で各時期の溝が掘削されている。Ⅱ期の溝の内1条は谷地形を横断して北岸へ向う。Ⅴ期の溝は1条検出され、南集落の環濠の

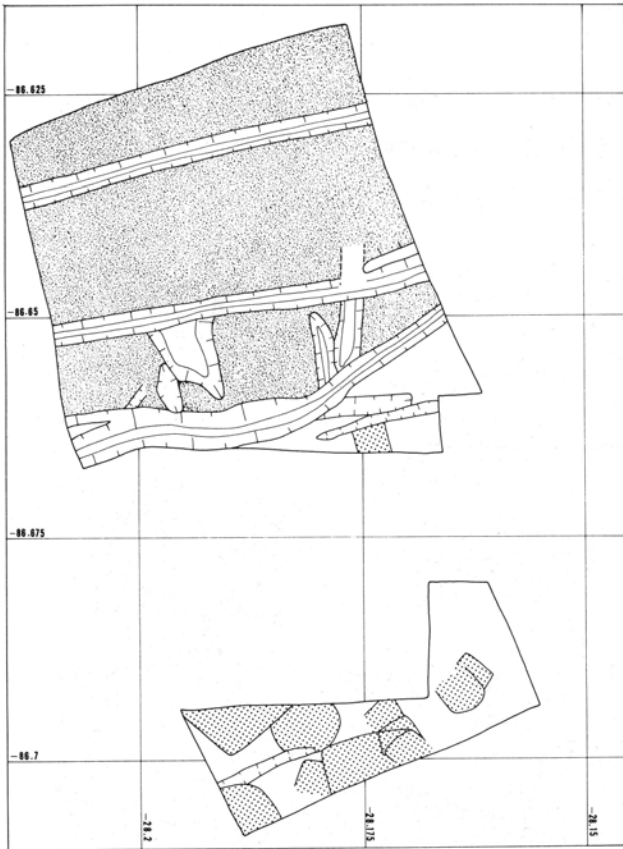


60年度 調査区位置図

一部をなす。この溝は、Ⅵ期に再利用され、同時に南側にもう1条掘削されるが、これは調査区半ばで途切れる。調査区南半では中期～後期の方形竪穴住居跡が検出された。谷地形斜面からは、未製品を含む多数の木製品が、又貝層中より石鏃が刺さったシカの腰椎骨が出土した。中世の方形土壇が2基検出されたが、形状・埋土とも土田遺跡のそれに類似する。



A区 谷地形肩部に堆積した貝層



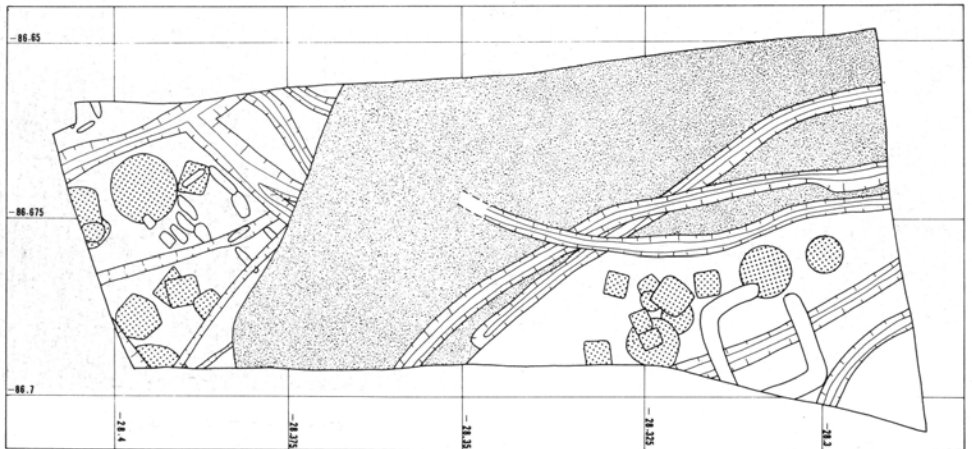
A区 遺構図



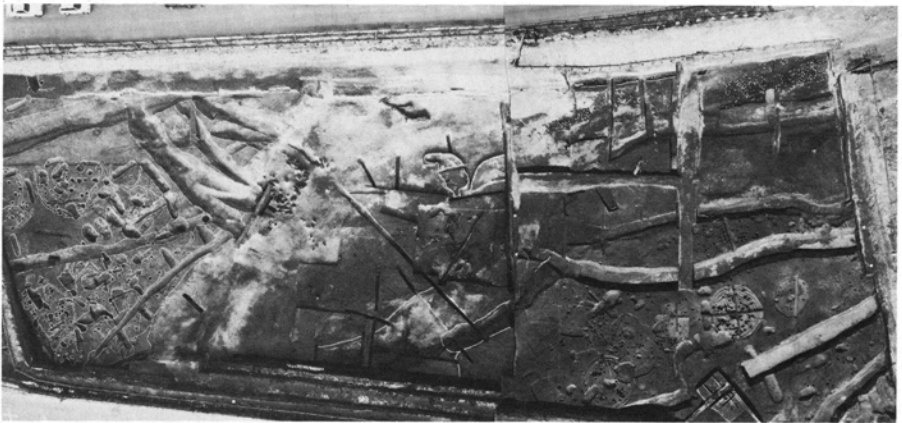
A区 全景

B～G区

本調査区は、谷地形が南へ折れる位置に当る。谷地形南、東岸のB～D区では、東西に走るⅡ期の溝が4条検出され、その内1条は谷を横断して対岸へ向う。谷肩部よりやや離れ、Ⅱ～Ⅲ期の円形、方形竪穴住居跡が10数軒存在する。Ⅳ期には方形周溝墓が築造され、主体部3基、壺棺1基を検出した。主体部には人骨が残存しており、仰臥屈葬、2体合葬の仰臥屈葬、伸展葬で埋葬されていた。西岸のF、G区は、Ⅱ期は住居群が存在し、Ⅲ期には墓域になり、方形周溝墓・土壙墓・壺棺を検出した。注目されるのは、玉製作に関わるⅡ期の大形円形住居跡で、製品・未製品・工具等が出土した。谷南・西岸にはⅡ期の貝層が堆積し、多数の骨角製品が、又谷中より勾玉5点、谷下部より縄文時代後期の鉢が出土した。A区同様の中世土壌を4基検出した。



B～G区 遺構図



B～G区 全景

まとめ

今回は、現在まであまり明確ではなかった谷地形近接地の集落構造を、ある程度明らかにすることが出来た。中期には谷に大きな流水を示す痕がなく、Ⅱ期には北集落の環濠が南岸まで及び、集落の一部に谷地形を取り込んでいた可能性が出て来た。又Ⅳ期のみに大溝が検出されず興味深い。谷に流水が確認されるのは、Ⅴ期以降のことである。

(丹羽 博)



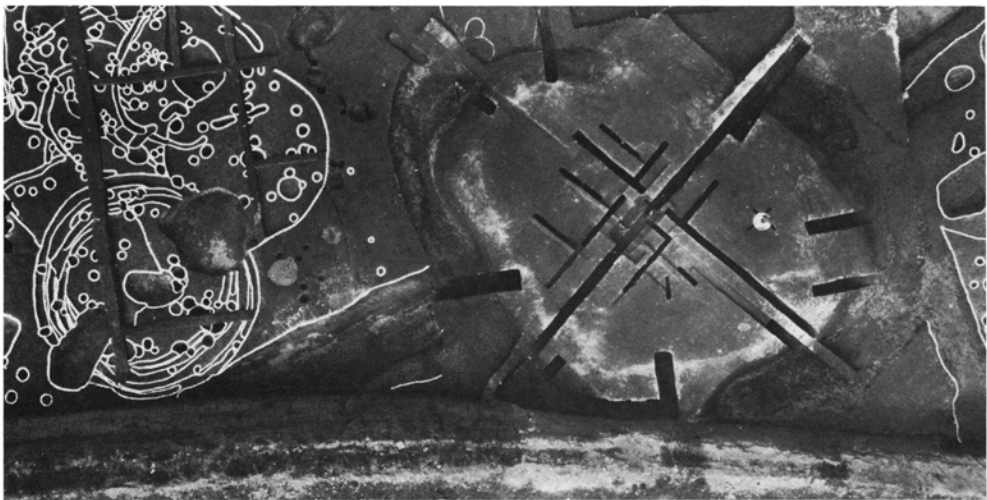
G区 壺棺(Ⅱ期)



G区 玉作遺構(北から)



E区 柄付モリ出土状態



C・D区 円形住居跡・方形周溝墓